

学力の向上を図るための全体計画

東京都の教育目標

- ・互いの人格を尊重し、思いやりと規範意識のある人間
- ・社会の一員として、社会に貢献しようとする人間
- ・自ら学び考え行動する、個性と創造力豊かな人間

練馬区教育・子育て大綱

- ・夢や目標を持ち困難を乗り越える力を備える子どもたちの育成
- 重点1 教育の質の向上
- 重点2 家庭や地域と連携した教育の推進
- 重点3 支援が必要な子どもたちへの取組の充実

各教科指導の重点

- ・学ぶことの楽しさや、充実感を体感させ、主体的・対話的で深い学びを実践する。
- ・見学、調査、実習、課題解決学習など多様な学習活動に取り組ませる。

総合的な学習の時間の重点

- ・各教科、道徳などで学んだ知識や情報を生きた知恵として身に付けられるよう指導する。
- ・自ら課題を見つけ、学び考え、主体的に判断して問題を解決する力を育み、自己の生き方を探究させるとともに表現力を育成する。

キャリア教育の重点

- ・ガイダンス機能を充実させ、自己の適性を知り、学習に目標がもてるように指導する。
- ・NPO法人、民間企業、同窓会と連携する。
- ・社会の一員としての自覚を持ち、正しい職業観を身に付けるように職業調べを実施し、将来における夢や目標をもたせる。

学校教育目標

人権尊重の精神を培い、国際的な視野をもち社会の変化に主体的に対応することのできる資質を養う。また、生涯を通して学び続けることのできる心身ともに健全で人間性豊かな生徒の育成を目指す。この観点に立ち、次の目標を定める。

「健康で心豊か、そしてよく学ぶ人」

学校経営の基本方針

- 1 生徒一人一人に寄り添った指導・支援を行い夢や目標をもち、困難を乗り越える力を育成する。
- 2 ICT環境の活用、指導方法・体制を工夫・改善し、確かな学力の定着と向上を目指す。
- 3 コミュニティ・スクールとして家庭および地域社会と協働し信頼される学校づくりをする。
- 4 教職員一人一人がニーズにあった研修に励み自己を成長させ、組織力のある集団にする。

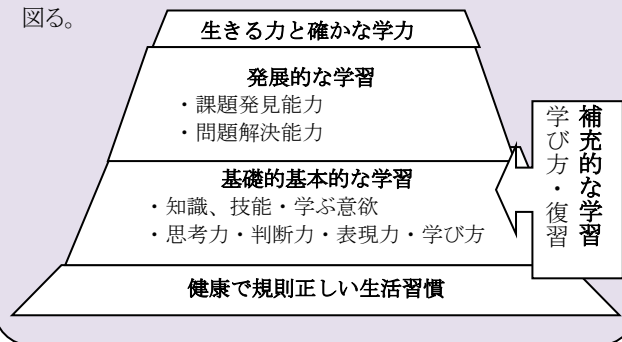
本年度の取組目標

- 1 授業は楽しい、タブレット、ICT機器を活用した指導、個に応じた指導を通して、学ぶ意欲をもたせる。
- 2 全教職員の共通理解、共通実践を図り、心身ともに健康な生徒の育成を図る。
- 3 道徳教育、国際理解教育等、様々な体験を通して豊かな情操を育む。
- 4 生徒会、学校行事等の活動を通して、生徒のよさを引き出す。
- 5 生徒が安心できる学校環境をつくる。
- 6 コミュニティ・スクールとして、保護者や地域との連携を深めた教育活動を推進する。
- 7「豊溪中学校に入学して良かった。入学させて良かった。」と思える教育活動、指導を行う。

豊溪中学校における確かな学力

本校では、学習指導要領に示された基礎的、基本的な知識や技能を確実に身に付けさせる。

生徒一人一人の学習状況を的確に見定め、補充的な学習や発展的な学習を取り入れ、個に応じた指導の充実を図る。



保護者・地域の願い

- ・心身共に健康であること
- ・確かな学力の定着
- ・生きる力の育成
- ・体験学習を通しての社会性の育成
- ・生涯学習の基盤づくり

道徳教育との関連

- ・学ぶことや人間、社会の在り方について、分からないことを謙虚に受け止めて、真理や真実を探究し続ける意欲を醸成する。生きることについての意味を見出し、目標をもつとともに、よりよく生きようとする積極的な態度を育てる。

特別活動との関連

- ・行事での活動から対話、協働を通じて課題解決を図る資質を育成する。
- ・生徒会活動、学級活動を通して、生徒の自主的な活動を尊重し、協調、融和の精神を育成する。

生活指導との関連

- ・落ち着いた生活態度の育成と学習規律の定着を図ると共に、集団生活に必要な規範意識を育てる。
- ・生徒理解を基本に、スクールカウンセラー、心のふれあい相談員、支援員、区のSSWrを活用し、生徒一人一人への相談活動を充実する。
- ・特に配慮を必要とする生徒の全校的な共通理解と特別支援教育を巡回指導教員・心理士・特別支援教室専門員と協働して行う。

授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫と学びの支援	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
・ICTを積極的に活用する。 ・実験や実習を多く取り入れた授業を展開し、学習意欲を高める。 ・英語・数学で習熟度を考慮した少人数指導を実施する。 ・できる限りの教科で分割授業を実施する。(現在2教科) ・全学年全校体制で夏季学力補充教室を開設する。 ・放課後の自主学習教室(K中パーシック)や11月以降に入試に向けた補習(K中ゼミ)を行う。 ・生涯にわたる能動的な学びに向け、他者との協働を取り入れた授業を展開する。	・行事の精選に努め、道徳、総合的な学習の時間を計画的に実践し、各教科において標準時数を超えた授業時数を確保する。 ・できる限り授業時間を確保し、教科時数の確実な実施となるように配慮する。	・ICTを活用した授業づくりに向けて授業研究を推進する。 ・課題改善カリキュラムの活用と見直しを通じて、指導課題の明確化と指導方法の改善に努める。 ・小中一貫教育研究グループの授業研究を通じて9年間を見据えた指導の充実を図る。	・各教科の評価規準、基準を見直す。 ・観点別評価から評定に至る総括方法についての共通理解を図り、評価に対する客観性、信頼性を高める。 ・生徒、保護者による授業評価を行い、授業改善に資する。	・面談等を通して規則正しい生活習慣や家庭学習の定着を図る。 ・地域の活動にボランティアとして生徒を積極的に参加させる。 ・NPO法人や民間企業、同窓会と連携したキャリア教育を推進する。(ライフプランニング等) ・学校支援コーディネーターの活用 ・コミュニティ・スクールとしての取組